全 員 協 議 会 会 議 記 録

令和元年１１月２７日

会　議　記　録

会　議　区　分	全　員　協　議　会
開 催 年 月 日	開　　議　午前１０時１５分 令和元年１１月２７日 散　　会　午前１１時５７分
場　　所	苫小牧市議会　大会議室
出　　席　　者	金澤議長、藤田副議長、喜多議員、山谷議員、 板谷議員、触沢議員、竹田議員、宇多議員、神山議員、 大西議員、大野議員、牧田議員、首藤議員、橋本議員、 佐々木議員、小野寺議員、原議員、木村議員、 矢嶋議員、桜井議員、谷川議員、池田議員、越川議員、 松井議員、岩田議員、小山議員、冨岡議員
欠　席　議　員	松尾議員
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、 小坂主査、高尾主査、吉田主査、
付議事件及び 議事の経過概要	別紙のとおり

全 員 協 議 会 会 議 案

令和元年１１月２７日（水）午前１０時１５分
苫小牧市議会　大会議室

１　案　　件

（1）議員定数について

開　　議　　午前１０時１５分

●議長（金澤俊）　　ただいまから、全員協議会を開会いたします。

議員各位におかれましては、大変お忙しい中御参集を賜り、感謝申し上げます。

●議長（金澤俊）　　本年４月１日に議会基本条例が施行され、条例の第６条で規定されております全員協議会の初の開催となります。

本日の案件は、お手元に配付の会議案のとおりであります。

お手元に資料として資料１を配付させていただいておりますので、御確認をお願いします。

本日の協議内容といたしましては、９月１３日の議会改革検討会で決定しておりましたとおり、議員定数についてでございます。

協議方法といたしましては、質問時間や回数を制限せずに、忌憚なく御意見を発言していただき、議員間討議を行うということで御了承をいただいておりました。

これから定数について協議をいたしますが、さきの議会改革検討会において、新たな候補者のためにも早目に結論を出すべきとのことから、優先的に協議するものでございます。そのため、正副議長といたしましては、来年、令和２年１２月までに結論を出したいと考えております。

また、定数を変更する場合は、令和３年２月に議員定数条例の改正を行う流れになろうかと考えておりますので、その点もあわせて御認識をいただきますよう、よろしくお願いします。

それでは、資料１、議員定数についてを藤田副議長から御説明させていただきます。

●副議長（藤田広美）　　それでは、資料の説明をさせていただきます。

最初に、１のこれまでの定数の経過についてですが、議員定数条例において規定されております議員定数は、平成１５年４月３０日までは定数３６名、１５年の選挙からは４名減の３２名、１９年の選挙からは２名減の３０名、２７年の選挙からは２名減の２８名で、現在に至っております。

次に、２の議会改革検討会での協議内容についてでありますが、２３年から２７年まで検討会で協議されてきた内容を記載しております。

２３年４月の統一地方選挙の際は定数３０名でありましたが、７月の検討会で定数について優先項目として取り扱うことを決定し、翌年の６月に座長案が提出されております。このときに座長案の提案は、現状維持、もう少し削減するべき、という意見がある中、穏やかな削減が望ましいのではという理由で、２名削減として提案をされ

ております。

その後、９月の検討会で協議を行い、１２月の検討会の結果、座長案のとおり２名削減とし、２８名とすることで決定をしております。

また、１２月定例会では、議員提案として議員定数条例の改正案を上程し、次の一般選挙から施行するということで、２７年の統一地方選挙にて定数２８名で施行されております。

その後、資料には記載されておりませんが、２７年７月の選挙後以降の検討会の検討項目となっており、２９年６月の検討会で次期改選期には定数の変更を行わないことを確認しており、３１年の統一地方選挙は２８名の定数で行われております。

次に、裏の３の道内全市の定数についてでありますが、こちらは道内３５市の人口、議員定数、議員１人当たりに係る人口について載せております。参考までにごらんいただければと思います。

議員定数についての説明は以上でございます。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございました。

それでは、議員定数についてこれから進めていきたいと思っておりますけれども、本日は結論を出すのではなくて、各議員が忌憚なく御意見を発言していただきたいというふうに思っております。

これまでは会派の代表が検討会等々で会派の意見として意見を述べていただいたりしておりましたが、定数や報酬に関しましてはそれぞれ議員個々人で意見があろうかということで、検討会、代表者会議の中で全員協議会の中で議論をしようというふうになって今日に至っておりますので、ぜひともそういったことを御理解の上、忌憚なく御発言をいただければというふうに思っております。

それでは発言をしていただく方は挙手をいただきまして、お考えを述べていただければと思います。

矢嶋議員。

●議員（矢嶋翼）　　特に予定はしていなかったのですけれども、あくまで会派の意見ではなく、個人の意見だということでございますので、初の私たちこういう体験ですので、どこまで僕もおしゃべりしていいかわかりませんけれども、全体の流れというのですか、日本全体そして北海道全体の流れからいくと、恐らく市民の方々の気持ちも、やはり減というか、議員の数が少し多過ぎるのではないかというか、もう少し減らしてもそんなに支障がないのではないかというようなことが、一般的には私は耳にしております。

それで私たちもこれまで努力して、私も初当選のときに３６名でございましたけれ

ども、これを見ますと一気に４名減らしたときもあったのですね。３６から３２という、こういった思い切ったことも一度ありましたし、あとは順調にある程度の間隔を置いて２ずつ減ということでございます。そして、この資料を見させていただきますと、函館が人口が２５万人いるにもかかわらず、苫小牧よりも少ない２７名でやっていらっしゃるということもございますので、私個人としては減の方向で議論していただければありがたいのかなと。

それでいきなり４だとかにはならないだろうなと思っておりますので、今度も２名ぐらいずつある程度の間隔を持って、あとは人口の推移も見ながら減らしていくということのほうが、市民の理解も得るのかなと思っているところでございます。

それからまた、報酬、今回は定数でございますけれども、以前から私がまだ若いころ、報酬と議員定数はセットだとおっしゃっている議員もおられましたので、そのあたりもどうなのか、報酬とセットと考えている議員もいらっしゃるでしょうし、僕個人はやはり分けたほうがいいのかなという。報酬のほうは報酬審議会がございますので。本当は定数も、第三者の意見があると、自分の身分ですから、我々はやはり守ろうとするわけです。だから本当は議員の定数も、第三者から見て減らしたらどうだというような指導があると一番僕らもやりやすいのですけれども、なかなか自分たちの定数を自分たちで決めるというこのシステムも、非常に、後々将来は第三者の意見も聞いて、そろそろ人口もこの程度だから議員の定数も減らしてはいかがかという、第三者からの意見も聞けるようになればいいなと思っておりますけれども、とりあえず今の現時点では我々の中で定数は決められるということでございますので、減に向かってのほうがよろしいのかなと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。

神山議員。

●議員（神山哲太郎）　　それでは、私個人の意見を述べさせていただきたいなというふうに思います。

まず、やはりこれは定数にかかわるということ、その前にちょっとお聞きしたいのですけれども、こういった全員協議会、定数の議論のときに必ずこの全員協議会をやるのかどうなのか、それの中で進めていくのかどうなのか、それをちょっとお聞きしても大丈夫ですか。

●議長（金澤俊）　　これまでの代表者会議及び検討会でも進め方については言及させていただいておりますけれども、この全員協議会は議会改革の一環で設置をしてい

るということがあり、また、その一方で今後進めていく議会改革の目玉というか何点かある中の一つが、この議員定数です。

先ほど申し上げましたように、各議員で報酬や定数については意見がそれぞれあるだろうということの意見がありましたので、それでこういう場を設けております。最終的にどういうような決定をするかというのは、それも実は今後協議しながら皆さんと意見いただきながら決めていきたいと思っていますが、とにかくそのいろいろな議論、意見を出して議員間討議をすると。その賛否も含めて、私はこう思う、こういういい点があるから減をして、例えばセット論の話も今ありましたけれども、こう考えるのだというのを意見を闘わせていって、最後何かしらの結論を導くということの一つのプロセスですので、そのように考えていただきたいと思うし、きょうだけではなくて、そういう意味では何回か今後もこういった場をつくっていきたいと思っていますので、よろしいでしょうか。

神山議員。

●議員（神山哲太郎）　　ありがとうございます。

一つのプロセスだということで今認識しましたし、自由討議、議員間討議というのは非常に地方議会ではなかなかやらない討議かなというふうにも思いますので、そういう意味では先進的な討議だというふうに感じています。

それで、定数については議会制民主主義の根幹をなす、議会全体にリンクするものであるというふうに僕も考えておりますし、平成２３年に法定の上限が取り払われて廃止されましたので、完全に地方に任されたというか自治体に任されたというか、地方議会に任されたという形になっています。

苫小牧市としては、市長選のときに同日選挙をやるかどうかということでいろいろやりました。議会側の解散も伴う可能性がある関係上、恐らくそのときにも、ちょっと読ませていただきましたけれども、そういったときにも議論があって、そのときは２８名ということの形でおさまったというのが現実だったというふうに認識をしています。このときにこの２８名という人数の検証をどのようにしていくのかという、その検証についても言及されていたかと思いますし、私も実は２８名という、定数が何名であろうが、検証というものをどのように進めて、どのように結論づけていくかというものを出さなければまずはいけないのではないかというのが自分の持論であります。

したがって、まずは定数の検証を、委員会を設けるとかいろいろなそういうつくり方、いろいろな議論の仕方があると思いますので、そういったことをしっかりとやっていくべきであろうというふうに思います。減らすとか何とかという話よりも、まず

はそこを重点的に置いていってほしいなと、いきたいというふうに思っています。

減った話をするならば、３年ぐらい前でしたか、亡くなった議員もいました。２６名のときもあったかなというふうに思いますので、そのときの例えば委員会だとか、そういった少なくなった委員会がどういうように機能していたとか、そういったこともある意味では検証しなければならないというふうに私は考えております。

議会制民主主義の根幹というふうに定数を僕は定義づけていますけれども、例えば今は苫小牧市としては、本会議が主ということで本会議主議をとっていますけれども、やはり議論を深めていくというふうなことを考えるならば、やはり委員会制をもうちょっと充実をさせて、例えば今は４委員会で１つの委員会にしか所属はできませんけれども、複数できるとか、そういうようなことも考えていくべきだろうというふうにも考えています。例えばそれが定数が削減されても、ということになろうかと思うのですけれども、そういった形もしっかりと議論すべきではないかというふうに私は考えています。そうなると、やはり議会日程も延びることも想像されますので、通年議会も視野に入れるとか、そういった議論もぜひやっていきたいなというふうに考えているところです。

自分の考えとしては以上ですので、ただ、今回は報酬のお話はしないということでありましたけれども、報酬とはやはり別に考えていく必要があるのではないかと、あくまでもそのように考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

今神山議員からもありましたけれども、ことしの統一地方選挙は一応その定数は変えないで２８でいくということで、池田議長の時代だったと思いますが、皆さんの了承の中で決めて、定数は変えないということで臨んでいますから、一応そういう経過はあるのですけれども、検証という意味においては、今皆さん現状をどう思っているかというのも、せっかくの場ですからこういう場でも御意見いただいて、これから先検証するというよりも、今現在どう考えているかとかということも含めて発言いただいても全然構いませんので、よろしくお願いしたいと思います。

小山議員。

●議員（小山征三）　　議員定数ですけれども、この定数を現状維持でいくのか、減らすのか、あるいはふやすという考えもあるのかと思いますけれども、これはある程度、今神山議員も言ったように、分析そして検証をやはりしなければならないと、それは議会全体ではなくても個人でもやはりする必要があると思うのです。

それで、私たちの会派は、実はこんな意見を、常日ごろ実は意見を出し合っている

のです。それでどうしたらいいかということもやっているものですから、個人というよりも私の会派は大体こんな意見が近いのかなということで発言させていただきますが、まず苫小牧市が東西に４０キロメートルの地形があると。それであれば幅広い住民の意見を聞くということであれば、多いに越したことはない、定数が多いに越したことがない、そのほうがいいというのは当たり前なのですけれども、人口減少となっていく中で、ふやすということはあり得ないでしょうと。現状維持というのが一般的ではないのかなと。

それと、定数が２８の選挙を本年と４年前の平成２７年に行ったわけですけれども、この２回の選挙の中で有権者数、人口ではなくて有権者数がどうだったかといいますと、４年前の有権者数が１４万３４１人と、ことしの有権者は１４万２，２２５人と２，０００人近く上がっているのです。御存じのとおり投票年齢を１８歳に下げたことによって上がっているということなのですけれども、その反面、投票率、これが４年前ですと４８．９９％に対して、ことしは４６．３０％ということで、大体人数にすると３，０００人ぐらい棄権していると。全体でいうと前回の選挙から見ると５，０００人ぐらい落ちていると。だから有権者数がふえているのに投票率が落ちていると。やはり今回が４６．３０ですから、棄権した人が７万６，７８１人、こんなにいるのです。だから、やはり投票率を上げなければならないというのは考えていかなければならないと。

そして、これは総務省の統計を見ましても、一番多く議員定数を減らした年度というのは、平成１５年から１９年の間に一気に全国的に減っているのです。そして、投票率もそれに伴って落ちていっている経過がありました。

そして、これは実は平成３１年は出ていないのです、４年前の平成２７年の市区町村、選挙で投票率が四十何．３３％と。毎年やはり下がっていっているのです。そして、この定数と投票率が同じように落ちていっているということを考えた場合に、苫小牧は有権者がふえているのであれば、まず投票率を上げようではないかと。これが例えば４０％を切るなどというのはとんでもない話なので、先ほど言いましたけれども、東西４０キロメートルの町ですから、幅広い意見、住民の意見を吸い上げるというのであれば、今の２８の定数で頑張って投票率を上げようと。では、それは議会でもそのために議会だよりも出しています。いろいろとやっています。個々にもすごくやっていると思うのです。ただ、それでも投票率が落ちているのは現実なので、若い人たちにどうやって発信していくか。特に若い人が落ちているので、若い人たちにどうやって発信していくかということも考えると、やはり定数を下げるということが前提ではなくて、現状維持で有権者数が上がっているのなら、まずは投票率を上げるた

めに個々に努力をしていきましょうということかなと。

時代の流れからいけば、将来人口減少になっていって、現状維持ではなくて削減というのは、当然時代の流れで出てくると思いますけれども、まずはこの２８の定数で頑張って努力して投票率を上げることを、まずは考えていきたいなということをお話しさせていただきました。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。

越川議員。

●議員（越川慶一）　　私も議員定数の関係について、いろいろと考えるところがありまして、きょうちょっと発言もさせていただきますけれども、やはり議会改革の柱の一つというところでは、この議員定数の関係、さらには費用削減というところも大きな部分を占めているというふうにも思っておりますし、その削減効果の最も高いというのは人件費、つまりこの議員定数の削減ということも一つではないのかなというふうにも感じているところがあります。

現在定数２８名からさらに削減するということは、これは議員の皆さんについては抵抗感があるというふうに思いますけれども、いろいろと今皆さんの御意見もお聞かせもいただきながら、今後やはり人口減少に伴うこの定数の考え方、さらには税収も含めて減収によって我々が日ごろから行政側、理事者側に求めて提案している各種事業における費用削減、費用対効果、こういうようなものも我々議員についてもやはり身を切っていく思いを持って挑まなければならない、そういうような現実を受けとめていかなければならないのではないかなということをまずは私は最初に申し上げておきたいなというふうに思います。

そのことを踏まえて、現在議員定数２８から私としてはさらに削減をすべきではないかというふうに考えています。削減の人数につきましては、現在の定数２８から４名削減の定数２４名、これを最初からでありますけれども、提案をしたいというふうに考えています。

これはいろいろと皆さんそれぞれの御意見があろうかというふうに思いますので、私個人の意見というところでもお聞きをいただきたいというふうに思いますが、やはり市民の声を反映させるため、そういう人数というのはわかっておりますけれども、人口全体に占める割合で求めているというケースが多いのかなというふうにも思っています。こういう資料も提出をされておりますけれども、他市とも比較する際にこういうような人口全体で比較をするという、そういうようなケースもありますけれども、

先ほど小山議員も言われていましたが、有権者数、これもやはり参考にしていくというのは一つの指標にはなっていくのではないかなというふうに思っていますし、さらにこの有権者数で求めるほうが今の時代にもマッチをしてきているのではないかなというふうに考えています。と言っても、選挙権がないからといって話を聞かないというわけでもありませんし、それは当たり前の活動として我々議員は基本的に選挙によって当選をして、その声を議会に反映をしていく立場にもあります。まさに市民に選挙で選ばれ、市民の声を代弁するという、そういうようなところだというふうに思います。

一つちょっと提案とさせていただきたいというふうに思いますけれども、今この資料では苫小牧市の人口が１７万１，８１１人ということで、議員定数が２８、議員１人当たりの人口が６，１３６人ということになっています。これは先ほども言いましたその有権者数、今私の手元では、ことしの９月１日現在での有権者数、選挙人名簿の登録者数で見てみましたら、１４万４，８５９人という人数になっておりました。これを現在の当てはめる、議員１人当たりの人口６，１３６名、これで割り返していきますと実態に即した議員定数が導き出されるのではないのかということで、ちょっといろいろと仮定をして計算をしてみました。その結果、１４万４，８５９人割る６，１３６人ということで２３．６人、大体２４人という定数が導き出されたという、そういうような計算ではありますけれども、そういうようなものも一つの手法としていろいろと見ていくこともあるのではないかなというふうに思っています。現在の２８の定数から、従って４議席を削減すると、そういうような考えでありますし、これを一度たたき台というような形でも結構ですので、いろいろな議会改革検討会の場でも検討していただくですとか、そういうようなことで使ってみてはいかがかなというふうに思います。まだいろいろと議論をこれから進めていかなければならないというふうにも思っています。

それから、先ほど神山議員のほうから検証の話もされておりましたけれども、ちょうど４年前から定数は変わらず、今回の選挙も定数は２８ということで、それで進んできたという経緯があります。先ほど神山議員のほうからもありましたとおり、ちょうど３年前になりますか、議員が２名欠員という、そういうような状況からもその中で議会を運営してきたという、そういう実績がやはりあります。これは議会運営としてどうだったのかというところ、これは私もやはり考えるところでありますし、委員会の構成として、人数としてもこれもどういうことだったのかというところを、やはりこれは一つの考えとして皆さんも持っていかなければならないのかなというふうに思っています。

これは議会運営を２６名でやってきたときの体制がどうだったのか、これは一つの目安になったり、指標になったり、これが苫小牧の議会でどう運営できてきたのかというのは、これは大変重要なことだと思いますし、検証はこれからというお話もありましたけれども、ある意味では補欠選挙が行われるまでの期間、約２年間ぐらいありましたけれども、これが実際の検証機関に結びつく可能性もあるのではないのかなというふうにも考えたいというふうに思います。

したがいまして、これは一つの目安になるのかもしれませんが、２８から２６ということも、これは削減可能な範疇ではなかったのかなというところも、これは課題として提起もしておきたいなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、最初に私もお話をしたとおり、定数についてはまずは２８から２４の４名削減という、こういう方向性を持ちながら、ただそうは言いつつも、前回の欠員状態が続いていた２６名、この２名の削減、こういうようなこともいろいろ考えながら、皆さんとまた議論をしていきたいなというふうに思っております。

それから、先ほどちょっと報酬の話も出ていましたけれども、報酬の話はまた別途ということになろうかというふうに思いますが、考え方だけ簡単に述べておきたいというふうに思いますが、やはり費用の削減、この効果を最大限に生かしながら、さらには議員としての活動、こういうこともいろいろと考えていかなければならないということでありますので、セットで議論するということにはならないというふうには思っておりますが、ただ、そこの関係性はあるだろうというふうに思っておりますので、ここは報酬とそれから定数の関係については、また引き続き皆さんとも議論していきたいなというふうに考えています。

以上になります。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。

小野寺議員。

●議員（小野寺幸恵）　　皆さんの意見をさまざま聞かせていただきました。

私の個人的な考えでありますけれども、先ほど議会改革の柱にもなるし、費用削減の効果にも大変有意義だということで、議員定数を削減するという意見も出されておりまして、私はこれには全く違う考え方を持っています。

議会というのは、私たち議員というのは市民から選ばれた代表、市民の声を市政に反映させる代表であるというふうに思っております。資料３にもあるように、私たち一人一人にのしかかっている人口を考えると、６，１３６名ということです。簡単にこういう人数で割るというのもどうかなとも思うのですけれども、一つの目安として

は１人当たり６，０００人の市民の声を聞く仕事が私たち一人一人の役割だろうと思っています。それにさらにまた削減をすることになったら、市民の声の反映というところでは、少し私たちの活動範囲をもっともっと広めないとできなくなるということでは、市民から見たら逆に議会改革には逆行するのではないかと。せっかく今私たち市民の声を聞こうと、市民に開かれた議会にしていこうと、そして投票率に関しても大変危機的な状況だと思っていますので、ぜひ有権者の皆さんに市議会にも興味を持ってもらおう、そして市議会で決まっていることが皆さんの暮らしに本当に直結しているのだよということを私たちも発信をしていかなければならない。こういう仕事をすることこそ、私は議会改革の柱でならなければならないと思っています。それには一定程度の議員定数というものがなければいけないと思っておりますので、私たちの一人一人に６，０００人の声がのしかかっているというふうに考えたときには、これ以上減らすべきではないと思っています。

有権者数が一つの指標だという意見もありました。私たちは確かに有権者から選ばれておりますけれども、１８歳未満の子供たちの声も聞くのも私たちの役割だと思いますので、やはりこの６，１３６人というのが目安でなければならないと思っております。ということから考えると、これ以上議員定数を削減するというよりも、今の現状維持のまま、さらに市民の声を聞くという役割をどう私たちがもっともっと向上することができるのか、そして市民に市議会のことを知ってもらって、市議会に興味を持ってもらったり、関心を持ってもらうことをやっていくのか、そして、それを通じて投票率を上げていくというのが、この２８名は最低ラインだと今思っておりますので、今回は議員定数は削減すべきではないというのが私の意見です。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

谷川議員。

●議員（谷川芳一）　　ちょっと声が聞き苦しいけれども、風邪なものだから我慢してください。

この定数問題は、この資料にもあるように、３６から３２人に、４人減らしたときがあります。そのときの経緯、背景がありまして、苫小牧市が非常に財政的に厳しくなって、このままでは大変だということで、職員を減らさなければいけないと。当時２，４００人ぐらいいたように記憶しています。それで模範として議会が率先して定数を減らして、職員に模範を示して定数削減に協力して、財政再建をしようということが論じられておりました。

そういうようなことで、この４人減じるというのは、そんなに反対の声はなくてい

きました。その後の市民の声もあって、市のほうも行政改革ということで、財政再建ということで随分大なたを振るって職員も削ってきた背景がある。それがこの４名減らした背景がありまして、その後、市長もかわり、いろいろと変わった中ですけれども、なかなか財政再建の道筋が見えてこないという中で、他市を見ながらやっていきましょうと。そのとき一番参考にしたのが、我が町の姉妹都市である八王子市であります。あそこは私どもより早くに、２４名だと僕は記憶しているのですが、していると。人口は私どもと似たような人口ですけれども、八王子市がそういうことだというようなことで、それの議論もされたときもいろいろとありましたけれども、私どもそれは余りにも急激だろうということで、段階的にということで２つずつ来たわけであります。

そういう中で、今皆さんも御存じのように人口減というのはもう避けて通れない。２０４０年には苫小牧も１６万人を切るのではないか、前後になるのではないかという話になったときに、苫小牧の地が。その中で現市長はＩＲで人口減を少しでもストップしたいということでありますけれども、私はそんなにＩＲは期待できないというように思っていて、人口がふえることは一時的になるものだから、期待できないと。そしてやはり人口は減っていくというふうに思っております。

そうすると、やはり議会も率先して模範を示しながら、これからのＩＴの時代に向けて職員も減らしながら財政もきちんとやっていくとなったときには、やはり議会が率先してやっていかなければだめだろうということで、このたびの議会のときには、私も市民の公約にきちんと言ってあります。定数は削減するというふうに申し上げたのは、そういう根拠からでもあります。

その中で私としては、次の選挙には１つ、その後に１つ、２つを減らすと。まず２６にやってみて、そのときの苫小牧の社会情勢、経済情勢を見ながらどうするかというのは、今後の人に委ねるべきではないかなというように考えて、定数は段階的に１つずつ減らしたいというふうに自分の考えは持っています。

それから、報酬の件になります。

報酬の件につきましては、以前からセット論と分離論がありました。セット論で話している人は、政党としては今も変わっていないように思ったのですが、ただ私としては、当然報酬というのは関連していくということと、ここ二十数年間下がりっ放しだということも考えて、ただしそれは行政の財政状況もよくなかったし、市長を初めまた市の職員も大変厳しい時代があったから、これまたやむを得ぬことかなと思っています。

しかし、多少苫小牧市の財政状況も、市長の話でいくと、方向性、道筋がついたと

いうことまで言っていますけれども、そういうことを考えたときに、市議会議員もほとんど専門職であります。兼職をしている人が少なくなってきたときに、先ほども言われましたけれども、市民の負託を得て、きちんとした議員活動を、市民の負託に応えるということになると、それは経済も伴ってくることは避けて通れない問題ですから、私はこれは堂々と議論をすべきだと。ただ、これを議論したからといって、報酬審議会で市長が答申するわけですから、これは市長がうんという、ただ、市長には我々の議会の声というのはきちんとして私たちは伝えるべきですし、伝えなければいけないのではないかと思っております。

やはり今苫小牧の市民が、納税者が８万５，０００人ほどいますけれども、その市民の平均は先日の私の情報を整理した中では、約２８０万円そこそこが市民の一般の１８歳以上の納税者の市民所得であります。ちなみに自治体の市を、これは総務省で出した数字ですから間違いないと思います。それで、あとは市の職員だけ、公務員の給料、市の職員の給料はどのぐらいかといったら、５３０万円ぐらいだというふうにたしか記憶しております。そういうふうに考えたとき、市民から見たときに我々は約７２０万円ぐらい今現在もろもろであると思っています。それは物すごい高いという数字に聞こえるかもしれませんが、実際問題、皆さんこういうふうに活動していて、そういうふうに高いと感じる人はそんなにいないと私は思うのです。

ですから、先ほど議長も言いましたように、自由に議論を活発にするということですから、ここは議会の場として市長に声を押し上げることを私はすべきだということで、報酬審議会も流されたことが何回かありましたけれども、最終的に報酬審議会で決められると。市長と連動して我々も行くわけですから、そういうことできちんと私は上げるということは議論すべきではないかなと。

また、この定数を減らしたときには、当然費用対効果ということで、減らした分、上げてもいいのではないかとか、それで議員活動をもっと広めたらいいのではないかという議論も過去にありました。私はそれは今でも賛成であります。特にこれから大変専門職であるこの市議会議員に近くなってきている議員が、立候補者も徐々に少なくなっている、全国的にも。苫小牧もそれは定数割れすることもそんなに遠い話ではないかもしれない。そうすると若い人たちが手を挙げてくれるためには、ある程度そこで生活のできる、専門職としてやっていける待遇、環境づくりをしないと本当にすばらしい議員が出てこなくなるのではないかというふうに私も思っていますので、ぜひこれは、幾らということは言えませんけれども、議論は堂々とするべきだと。市民に知られても僕は当たり前のことだと、最後はわかることですから、きちんと議論をして、そして市民に、市長に訴えて、我々の背景を。そしてより一層負託に応えてい

くと。それは定数を少しずつ減らしていくということが私は大事なことかというふうに思っていますし、今後そうすべきだというふうに思っております。これが私の議員になったときからの考えでございます。

当然それには職員の定数改革も含めて、あわせて市長にはやっていただかなければならないし、やるべきだというふうに思っているわけですから、ぜひそんなことも含めながら、あわせて市の行政改革を含めて、逆に言うとセット論でもいいのかなというように思っています。

ただ、これからＩＲで市長いわく税金がたくさん入ってくるというようなことになると、またそのことも消されるやもしれませんけれども、私は長期的に物事を見ていくべきだというふうに考えています。日本の人口は１カ所に一時的に集まっても一気にふえることは、ここ３０年間ないと私は思っていますので、このようなことで苫小牧が継続的に安定した、すばらしい議員がこれからも出るためには、そういうことをすべきだというのは自分の強い思いであります。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

一応一通り会派には当たった形にはなっておりますけれども、先ほど申し上げましたように、そこにこだわらず、議員個人としての意見もどんどん言っていただければというふうに思いますが、そういう意味では、触沢議員、何かありますか。今の議論聞いて何か、感想でもいいです。半年ほどやられて。

では、池田議員が言っている間に考えていてください。

池田議員。

●議員（池田謙次）　　考えておいてください。

結論から言うと、私としては先ほど神山議員も言ったように、きちんと一回検証しないとだめだと。例えばこれは２８年の２４でも３つでも４つでも、正しきそういう定数論というのは、正論というのは、多分正解というのはないのだと思います。いろいろな要素があってという。

先ほど例えば言われた、小山議員もおっしゃったような、例えば投票率の問題。これもいろいろな要素があるにしても、例えばなかなかこれは議会で出ませんけれども、私が何か一つ提案したいのは、議員力をちゃんとつけないと、例えば選挙一つにしても、選ぶ側が、いろいろな要素があって魅力がない。それは行政なのか政策なのか議員なのかといろいろな要素があるわけでしょう。私はある意味、議会改革というのは、ある意味では議員改革でもあろうと。例えば今回の委員会でも、あるマスコミのほうから質問力というような記事も出ましたけれども、数も大事、だけれどもその中身を

きちんと我々が例えば力をつける議員が、それはもっともでしょうという市民の方からコンセンサスを得られるような内容もやらないと、数も大事なのだけれども中身もしっかり私もやらなければだめだというふうに思います。

先ほどもちょっとあったように、例えば通年議会であったり議員研修セミナー、こういうことを積極的にやらないと、先ほど言ったようにちょっと上滑りしてしまうかなという思いがあるものですから。

今谷川議員もおっしゃった報酬についても、例えば今の議員を見ていて、いいのではないかと、４４万円、多い、少ないと、それは一つの尺度というものは、議員に払われる報酬だから議員が評価されているのかどうなのかというのは大きな問題ではないですか。ところがここがなかなか議会で出ない、触れようとしないというある現実があろうかというふうに思います。

ただ、済みません、話が飛びますけれども、報酬とセットで議論というのは、私はずっと言っていますが、セットになるわけがないのです。私も２０年前からずっと、３６でやりました。議会で数を決めました。そのときにいろいろな話があって、議員が先ほどあったように身を切るから、その分だけ反映されて浮くわけですから、それは報酬にはね返るという何かもっともらしい話ですけれども、要は議会と報酬審議会は、委員は別個ですから、なるわけがないのです、大体。いろいろな意見を持つのはいいのです、報酬審議会に対して。それは全然自由。でも極端なことを言うと、きょうは２８名の議員がいるけれども、この中で報酬審議会は誰と誰と誰が何名なっているかということを知っている方というのは、ほとんど知らないと私は思います。失礼かもしれませんけれども、現実問題として。そういう現状で別個の組織と交流もそんなにない中で、セットで論じると言っている意味が正直言ってわからなく、あり得ないというふうに思います。それはそれで一つ言っておきます。

それとさっきに話を戻しますけれども、うちとしては一回そういうことも含めて、今各委員が、委員会が６名なり７名、それがいいのか少ないのか。先ほど小野寺委員も言ったけれども、最終的に議会も、議会改革というのは市民の声をどう聞いて、どうバックするかということがある意味では前提ではないですか。その今の人数が６か７がいいのか悪いのかも論じないで、それで少なければ少ないほどというのは、ちょっとよく意味がわかりません。

だから中身をしっかり検証して、いいのか悪いのか、そのときはやはり人数もそうだけれども、議員の質の中身もあるのでないかとなったときに、次のある意味では改革が始まって、次の段階だなと私は思うものですから、まずしっかり検証をして、そこから定数はさらに深めていくべきかなというふうに私は思うものですから。一言お

話をしておきたいというふうに思います。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

触沢議員がまだまとまっていなかったら、ほかの方がいらっしゃったら。

桜井議員。

●議員（桜井忠）　　私は谷川議員と考え方が違いますので、申し上げたいと思いますが、まず、下げる上げるというよりも、定数というのが幾らが正しいのだと、幾らいなくてはいけないのだというところを、まずきちんとみんなで議論しなければいけないのではないのかなというふうに思います。

私は、申しわけないけれども、語弊があるかもしれないけれども、市民の皆さん方は、これが定数を４減らしたとしても、そこからまた減らせ減らせということが出てくると思うのです。ですから、それよりも幾らが正しいのかと、そのことをきちんとまず議論をするべきだというふうに思います。

その中で、私は最初に立候補したときに３６人いました。そうすると、４つの委員会で、１つの委員会に９人ずつ人がいる。委員長が１人抜けても８人で議論をする。しかし今は７人ですから、委員長が抜けると６人で議論しなければならないと。やはり議論が、私はこれ以上減らされたらそんなに深まっていかないのではないかなというふうに思っています。

そういう中で、先ほど来もちょっとありましたけれども、１人の議員が２つの委員会に所属すると。それから今４つに委員会を分けていますが、これは私は逆にふやして、５つにふやして１人２つずつ所属すると、１つの委員会に１０名ぐらいずつ配置されるようになります。例えばですが、そういうようなことにして改革をしていくと。そのことをやった上でないと、私は減らすことには賛成をできません。

ただ、そういうことをやって、議員も１つの委員会ではなくて２つですから、勉強したりなんかする時間も必要になってきますけれども、そういうことには私は苫小牧の市議会議員の皆さんは嫌だと言う人はいないと、一生懸命勉強してくれるというふうに思っておりますし、そういう中で１つの委員会に対して議員がある程度今より多くなる中で定数を１でも２でも減らすということは私はそれは反対いたしません。しかし、その前にそういうことをやった上で定数の削減はするべきだというふうに思っております。

それからもう一つは、新人が出やすいようにしなければならないというふうに思います。それは報酬の件もあります。しかし、きょうは報酬のことをお話しする場ではありませんのでしませんが、私以前に若いときにシティーマネジャー制度の本を、東海大学の先生が書いた本ですが、読んでいたときに、やはりアメリカのいろいろな州

によっては、定数が６だとか７だとか非常に少ないところもあるということがわかります。そういうところはそれぞれの党がもう代表者のような形で、道議会議員がこの選挙区では３定数ですから、その倍ぐらいの人たちの議席を争うとなると、やはりそれぞれの政党が自信を持った候補を立ててくるのだということでありますが、しかし逆に言うと、そういうふうになってくると、なかなか新人が割り込むというのが難しい、少なくともアメリカと違って日本の政治風土では難しいのではないかなと。ですから、減らしていくと、なかなか新人が出にくい、現職がやめる人がいても定数が減ってそれで終わりみたいなことになりかねませんから、やはりそういう面も含めて議論をしていきたいというふうに思います。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

触沢議員、まだいいですか。

では、岩田議員。

●議員（岩田薫）　　私も先ほど会派としてはいつもお話をしているとおり、削減すべきではないという状況でございますけれども、私個人としての。

今回この道内の市の定数についてということで資料をいただきました。苫小牧市の人口は北海道で４番目ということです。議員定数が２８で、これも４番目と。議員１人当たりの人口が６，１３６人、これも４番目と。ある意味、私は今の２８の定数が合っているのではないかなという気持ちもします、数字からいくと。

それで、苫小牧市の人口がマックスが１７万４，０００人だったと思います。今現状で人口が減ったといっても１７万１，０００人、ということは６，０００人減っていないわけです。ですから、僕はここで６，０００人を切ったりするのであれば減らしてもいいのではないかなと思います。ただ、この場合まだ１７万人を切っていないわけですから、今の定数でいくべきではないかと。

市民の皆さんは、やはり先ほど言ったとおり、減らしてもまだ多いとかいろいろなことを言うと思うのです。でも、根拠としてこういうことだと、しっかり先ほど言ったとおり定数の議論をして、そういうふうにすればいいのではないかなと思います。

それから、よく東京のほうに私たちの会派でセミナーに行きます。そのときに必ず講師の先生は議員定数は減らすべきではないとはっきり言います、常に。それはやはりいろいろなことを、先ほど言ったとおり多くの市民の皆さんから意見を聞く、そういうことのために減らすべきではないというふうに必ず言われます。

それと、議会に係る経費というか、そういうものを何というか省くというか、それを効率化するということは、やはりそこも、ただ定数を削るとかそういうことだけで

はなくて、議会の中で、例えばきのうもやりましたとおり、ペーパーを減らすこともしかしたら削減につながるのではないかと思いますし、そういうことも少し議論をしたらいいのではないかなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。

松井議員。

●議員（松井雅宏）　　さまざまな議論がありますし、これは正しい定数という話もありましたけれども、何が正しいのかというのは、その人、その人、その立場で随分違ってくるのだというふうに思いますので、やはりここで議論していくことが大切だなというふうに思いながら聞いておりました。

その上で時間軸という観点で一つ申し上げたいと思いますけれども、過去の４０人いた時代、３６人の時代、それぞれあったわけでありますけれども、そこを時間軸にして議論しても余り意味がないのかなというふうに私個人としては思っております。

そこで、２８年の２月に策定した総合戦略、人口ビジョンを持ち出してちょっとお話をさせていただきたいと思いますけれども、今現在１７万１，０００人の人口を有するわけでありますけれども、社人研によりますと、これは余り外れたことのない推計だということで私どもは聞いております。社人研の推計では２０４０年には１４万人台、そして２０６０年には１１万人台になっていくと、こういうショッキングな数字が出てきて、総合戦略と人口ビジョンが策定をされてきたわけでありますけれども、そうならないためにこれから苫小牧市はどうやっていかなければいけないのかということを総合戦略に掲げて、この３年間取り組んできている経緯があります。

それで、いろいろな、考え方はこの２８名の議員で違うかもしれませんけれども、先ほど来から話が出ておりますように、人口が減っていくということは間違いがないということは同じ価値観だと思いますし、それをとどめるためにこれまでどおりのことをこれまでどおりの努力でやっていては追いつかないということもこれは議員として共通認識できることだと思います。ですから、新たな取り組み、チャレンジを今後していかなければ、その人口を減らしていくことに歯どめがきかないということも、これは共通認識ができるというふうに思います。

そこで、その議会の果たす役割ということを考えたときに、やはり議会にとってもこれまでどおりのことを、これまでどおりの努力でやっていてはいけないという観点からすると、会派でもいろいろ話をしておりましたけれども、私個人としてもやはりこの議会の量よりも質を高めていくと。いわゆる若い人たち、優秀な若い人たちがこ

の議会を目指していただいて、将来のまちづくりをしっかり見据えていただくということが大切なのではないかなというふうに思います。

その上で、議会の人材づくりということも時間がかかることでありますから、そういう取り組みも２０４０年、２０６０年のそう長い先のことは余り考えなくてもいいというところに立たずにして、今からそれを取り組んでいかなければいけない。そういうふうに考えておりますので、議会の活性化を今以上に進めていく、魅力ある議会にしていく、そして若い優秀な人たちがこの市議会を目指していただく、それによって行政が今取り組んでいる総合戦略あるいは人口ビジョンに掲げている積極的な行政の変化を起こす、それに議会も対応していく、むしろそれを議会がリードしていく、そういう議会をつくり上げるために、先ほど報酬の話もありましたけれども、決してセット論という話を越川議員が言っているわけではなくて、関連性があるのはこれは間違いない話なので、そういった関連性を持ちながらこれからは議論して、私個人としては削減に向けた議論を進めていきたい、このように考えております。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

触沢議員、そろそろ。何か御意見があったらお願いします。

触沢議員。

●議員（触沢高秀）　　ありがとうございます。

私は基本、議員数はふやすべきと考えていますし、先ほど報酬の話もありましたけれども、報酬も削減ではなくて上げていく方向で考えていったらいいのではないかと個人的には考えています。

では、その根拠はどうなのかといえば、幅広く市民の皆さんの意見を聞いていくのであれば、今の２８が適正なのかというところはちょっとおいておきまして、逆に平成１５年には３６名いたのであれば、３６名いても何らそのほうが幅広く意見の集約をできるのではないかと考えます。

やはり報酬の面で経費削減とか、その辺で今どんどん減ってきたと思うのですけれども、そこはおいておいてという定数だけの話ですので、私は１名でも２名でも次の選挙にはふやしたほうがいいと考えております。

以上です。

●議長（金澤俊）　　他にございますでしょうか。何か御意見ありましたら。

小野寺議員。（発言する者あり）

複数回大丈夫です。時間、回数はかかわらないとさっき言いましたけれども、大丈夫です。何回でもいいです。

●議員（小野寺幸恵）　　済みません、皆さんの意見を聞いて、皆さんも自由に御意見を言っていただきたいと思います。（発言する者あり）

●議長（金澤俊）　　御静粛に願います。

●議員（小野寺幸恵）（続）　　そのほうが議員間討議ということで、せっかくの全員協議会が実現したわけですから、全員発言が一番うれしいなと思っておりますので、ぜひ御意見を私も聞きたいと思っています。

今皆さんからいろいろな意見を聞いて、なるほどなと思う意見もさまざまあったのですけれども、まず議会改革ということに主軸を当てたときに、何が改革なのだろうなと。やはりそれぞれ議員の皆さんが考えているところが違うと思います。

それで、市民の皆さんから、議員が多い、議員を減らすべきだという声を私も実際に耳にいたします。それはなぜそういう声が起きるのだろうと考えたときに、多分皆さん一人一人の議員の皆さんがやっている活動が見えていないし、議会でどういうことが決められているのかもきっと伝わっていないし、そして議会とは何だろうと。私たち議員一人一人一体日ごろ何をやっているのだろうという、そういう率直な疑問と、見えないということが、市民から、そんな２８名も多いよなということにつながっていっているのではないかと思っています。それで今皆さんと力を合わせて議会だよりをつくってきたわけです。そして多くの市民の皆さんが関心を持って読んでくださっております。それだけでは私はまだ不十分だと思うので、いろいろなことをやりながら、市民の皆さんに、議員とはどのようなことをやっているのか、議会はどういう議論をしているのか、自分たちの暮らしにどのようなふうにつながっているのかということを見ていただいたら、議員２８名は決して多いと思う方たちはいらっしゃらないと思うのです。

そして、人口減の話も先ほど来出ておりました。もっともっと減るだろうという予測はされておりますけれども、その減ったときに改めて考えてもいいのかなと思っています。私はずっと将来２８名でいるべきだという考えは持っていません。今１７万人規模の人口のときには、２８名は最低ラインだろうという考え方です。それが１４万人とかになったときには、また考えなければならないと思っておりますし、その状況、状況で協議していけばいいのではないかなというふうに思って、皆さんの御意見を聞かせていただきました。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございました。

済みません、冨岡議員、待ってください。

これは議員間討議ですので、誰かが発言したことに対して、いや、私はこう思うの

だということもどんどん出していただいて結構ですので、批判とかではなくて、ちゃんとそれに対して私はこうだというのを述べてもらうのは全然オーケーですから。それで皆さんもぜひ御議論いただければと思います。

冨岡議員。

●議員（冨岡隆）　　よろしいですか。（発言する者あり）

●議長（金澤俊）　　御静粛に願います。

●議員（冨岡隆）（続）　　私も今回６期目ということで、池田議員と同じように、一緒に当選したメンバーなのですけれども、私はやはり３６人のときに当選させていただいて、そのとき、すごい人たちだなと、そういうふうに、新人だということも含めて、いや、みんな勉強して、すごく頑張っている人がたくさんいるのだなと、会派関係なく、やはり持論も含めて苫小牧のこの問題点というか、どうしたらいい町になるのかということで、それぞれの立場から質疑していたのを見て、これは本当に勉強をしなければだめだなというふうに思ったところなのです。

今２８人ということで、池田議員も言っていましたけれども、本当に議員が市民の声をやはり議会に届けて、できるだけみんなの暮らしに役立つように、助けると。本当に暮らしやすいような、そういうやはり町にしたいということで、私もそうですし、皆さんもそうだと思います。ですから、その声が、苫小牧に今８５町内会があります、市は町内会とも一体となってとよく言いますけれども、役員もなり手もいないとか、表面的にはそういうことはありますけれども、そういうたくさんの町内会の、住んでいる、やはりこの町なのです。先ほど小山議員も４０キロメートルと一言で言いましたけれども、本当に広いですよね。ですから、そういう人たちの声を取り上げるとなれば、私は少ないのかなというふうに私個人としては思っております。もう１人、２人やはりふやしても、本当に市民の皆さんにちゃんと議員のやっている仕事をちゃんと伝えれば、私は応援してくれるのではないかなと思います。そこがなかなか今うまくいっていない。

本当に前回もそうですけれども、ほとんどの人が質問を行うと。大きな見出しでも報道もされていました。それぐらいみんな必死になって一生懸命質問をしようと。この皆さんの気持ちが本当に伝わったときに、私はやはり今の定数を減らすのではなくて、本当にふやしてでも、もっと新しい、新人の人が、本当に議員になってこられるような、そういうやはり環境を私はつくっていくべきではないかなというふうに思っております。これが私の一応考え方なので。

検証もあります。でもやはり議員の人たちが今一生懸命頑張っているその中身をもっと伝えることが私は議会改革のやはり中身ではないかと思いますので、一言つけ添

えておきます。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございました。

小野寺議員から、こういう場なのでぜひ全員できればという話もありましたので、何か少しでも考えていることがあればどんどん言っていただきたいのですけれども、他にございますか。

宇多議員。

●議員（宇多春美）　　皆さんの意見を聞いて、本当にいろいろとあるなというふうに感じて、一人一人の意見を聞いたら本当にうなずいて、心が今動いている状況です。

私もこの検討がこれからも続けられるという上で、私が今思っていることをちょっとお伝えしたいのですけれども、本当に今冨岡議員がおっしゃったように、私たちがしているこの議会の活動を、本当に多くの市民の人たちに届けて、そして一緒にまちづくりをしたいなと思っています。

そして、先日市民の方たちで模擬議会がありました。その中で選挙というか、議員になるためにはどうしてもお金がかかるという提案があって、それに対しての御答弁は、ポスター代とかそういうところで負担をしているという御答弁だったのですけれども、その後にさらにちょっとその人たちと一緒にお話をしたときに、そういうところではないのだということですよね、結局お金がかかるというのは。それもまずそういう御意見がありました。

報酬のことなのですけれども、それぞれの会派の構成の中によって企業さんから出ているところもあれば、団体とかも、表現がちょっと違うかもしれないのですけれども、ありますよね。全く個人でというところも、やはり議員がいるわけであって、私も今まで２期８年やって、今３期目なのですけれども、それを見ていて、私の身近な若い、市議に本当に立候補してくださって、一緒に今仕事をしていますけれども、やはり若いということは自分の家庭もありますし、子供をしっかりと教育して育てていかなければいけないというときには、ちょっと一歩も二歩も下がって見ていると、大変な生活かなと。ちょっと子育てが終わった私にしたら心配な部分もあったりもして、そういうところがやはり今の一般の市民の方たちでまちづくりを一生懸命かかわってくださっている方がこう勇気を絞って、では自分たちの思いを市政の中で取り入れて頑張ってみようというところがちょっとブレーキがかかっているのかなということもあります。だからといって、では選挙の体制を苫小牧市だけが変えられるということでもないでしょうし、そういうこともありながら、何を言いたいかというと、今ちょっと私が気づいたりしていることを述べさせてもらいましたので、先ほど来からありますように、２８人の検証、そこに見える部分もみんなで討議していって、では一人

一人の仕事ぶりも検証もしなければいけませんし、私も２名いないときの委員会がありましたけれども、やはり私を除いて５名というときには、もう少しこう討議してほしいなという部分もやはり委員長として経験したこともありましたので、そういうところもこれからのこの会で一生懸命に私も発信して、ちょっと自分なりに検討していきたいなと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。

橋本議員。

●議員（橋本智子）　　みんなの意見を聞くということで、今回は私自身、一応年をとっていても新人でしたので、新人として今回の選挙のことで感じたことをちょっと述べさせていただきたいというふうに思います。

やはり２８人の定数の中で、新人として、特に女性として立候補するというのは非常に勇気の要ることでありました。先ほどから皆さん、若い力の人がぜひ入ってほしいということも述べられており、私もそれは非常に希望するところではあるのですけれども、やはり若い方の中には、どうしてもいろいろと仕事の関係であるとか、それから生活費の関係で立てないという選択をする方が周りにはいらっしゃいました。その中で私はたまたま条件がよくて、立候補することができたのですけれども、それであってもやはり当選するまでは非常に、大丈夫だろうかということもありますし、やはり新人にとって初当選というのは、知名度もない中で本当に大変なところであります。

ですから、２８名、先ほどから皆さんの御意見を聞くと、私も宇多議員のように、一々それも納得だなというふうには聞きました。今後、そういった皆さんの御意見をもとにこれから論議が進んでいくと思いますけれども、新しい力を議会の場に持っていくにはという議論もぜひその中の視点として捉えていただきたいというふうに思いますし、私自身も会派の中で、２８名、この苫小牧の中でいろいろな皆様の御意見を聞くに当たって、この人数が本当に正しいのかどうかというのをきちんと検証していかなければならないなというふうに思っております。

私自身の体験を踏まえましてお話しさせていただきました。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますか。新緑さん。

では、年の順ではなくていいですか。

では、竹田議員。

●議員（竹田秀泰）　　私は現状維持というか、もう少し若い人が立候補しやすい環境をつくるべきというふうに考えているところです。これ以上定員を減らしますと、やはり組織選挙が強くなりますので、個人選挙が非常に難しいという感じを持っています。

私自身、組織のない人間が立つ場合に、非常に組織のある人間に向かっていくには、非常に度胸と、非常に時間もかかりますし、それをやはり若い人が立てる環境づくりをしてあげないと、やはり若い人の投票率も上がっていかないと。そして、組織の人間であれば、やはり一般の市民がそういう相談もしづらいという環境がありますので、やはり一般市民が、もう少し若い人が選挙に立てるような環境づくりを先にやるべきというふうに私は考えているところです。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

板谷議員。

●議員（板谷良久）　　私はちょっと結論から言うと、現状維持が適正かなというふうに思っています。

今私も議会だよりのほうとかはやってはいるのですが、やはり議会というのは何をやっているのだと、議員というのはどんな仕事かというのが、まず市民は余りわかっていない。議員が減ることによって、その発信力というのが低下してくるというのが非常に危惧されているというふうに私は考えています。

先ほど触沢議員も言いましたけれども、もう３０人でも３６人でもふやしていけば、その分だけ間違いなく情報の発信力はふえてくる。今この時点で、人口がどれぐらい減ってくるかというのは、毎年１，０００人ずつは減っている、ある程度の人口減を見たときには議員定数は減らさなければいけない、そういう考え方はありますが、やはり今ここで人口よりも、まず議員として議会としての発信力というものを考えて、定数は減らすべきではないなというふうに思います。

また、投票率について先ほどどなたか発言されていましたけれども、やはり若い人とか今皆さんここにいるメンバーの中と違うカテゴリーの人たち、もう半分が投票に行っていないわけですから、その人たちが核になれるような人が新しく議員になりたいというところが出てくれば、投票率は上げていける可能性がある。そういったことも考えると、皆さん若い議員、新しくなった議員もそうなのですが、最初に議員になるための選挙を乗り越えるというハードルを少しでも下げていかなければいけないというふうに私は考えておりますので、やはり今の人口減少のレベルで考えれば、定数

に関しては人口よりも今の議会の発信力を強める。また若い人の世代をふやしていくということを重視して、現状維持が適正ではないかというふうに考えます。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

越川議員。

●議員（越川慶一）　　済みません。

ちょっと先ほど皆さんのほうから、この定数の関係について検証をという話が何回か出ているのですけれども、検証するのは必要なのだというふうには思いますが、先ほど議長のほうから言われていたとおり、スケジュール感でいくと令和２年の１２月までに結論を出すという、そういうようなところからスタートしているのですが、そうなると、この検証自体が、ではいつまでにできるのかという、そのスケジュール感というのが、ちょっとこうなかなか今この話を聞いていると、検証していくとこのスケジュールでは難しくなるのではないのかなという思いもちょっと持つのですけれども、逆に言うと、１２月までに結論を出すためにそこにぐっと持っていくような検証の仕方にするのか、そういうようなところを何かちょっとお考えがあればお聞かせもいただければなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

●議長（金澤俊）　　私が答えるのでいいですか。

今の越川議員、そういう意味で冒頭に私のほうから、お尻はここを考えているということを申し伝えさせていただきました。それで実は先日の臨時議会の開催もそうなのですが、急遽ああいった形で開くと、準備される議員もそうですが、実は議会事務局さんもいろいろな準備に時間と労力がかかっておりまして、このＩＣＴ化も含めてこういった議会改革の項目というのはほかにもたくさんある中で、ちょっとスピード感を持ってやるためには、事務局さんも議員の皆さんも少し頑張らなければいけない。議会基本条例の制定のときみたいなスケジュール感になってくると思うのです。

ですから、それを御了承いただける、こちら事務局のほうの都合も確認しながらですが、であればもうちょっと詰めた形でやっていくというのは今後検討していかなければいけないのかなというふうには思っています。

先ほどもちょっと私も言いましたし、残り３０分弱の中で投げかけようと思っていたのは、せっかくこういう機会があるので、検証するというのも、検証するのは最後はやはり議員の皆さんで検証することになります。ですから、検証するというのは何を検証するのか。例えば議会運営がちゃんとできたのかどうかとか、議論ができなかっただとか、そういうことが対象になってくるのではないかなと私個人的には思って

いるのですけれども、もしよろしければ、検証が必要だというふうにおっしゃられた方もいらっしゃいましたので、今後、ではどういったことについて検証していくのか、委員会の数はこれで人数は足りていたのか、もしくは２６名の時代はよかったのかとか、何とか乗り越えられたという意見も中にはあるとは思うのですけれども、残りの１２時までの時間の中で、そういう検証のあり方だとか、何について検証するか、もしくは足りていた、よかったという、現状で検証を皆さんの中でお持ちのものがあれば出していただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

これは、越川議員の答えになっていますか。いいですか。

神山議員。

●議員（神山哲太郎）　　ちょっといろいろとお話ししたいと思いますけれども、私は１９年に当選させていただいて、当初そのときは午前中に常任委員会をやって、午後から特別委員会をやっていたようなときもあったように記憶しています。今で言うと大体１日ということであれなのですけれども、やはり議会で質疑するためには、その準備とかが非常に、僕はずぶの素人でしたので、いろいろ言葉一つ勉強するのも非常に、その言葉の意味合いを勉強するのにも非常に大変だったような思いがありました。

それで、やはりそういうところから考えると、その議会そのものが果たしてこういう日程でいいのだろうかというところから多分スタート、検証しなければいけない。だからこそさっき通年議会の話もちょっとだけさせていただきました。通年議会にすべからく全ていいとは限らないとも思いますし、今やっている体制が本当にいいのかどうかも含めて、そういうこともみんなで議論しなければいけないのではないかなと思うのです。短いとか、やはり勉強する時間がないとか、補正予算であれば先ほどいろいろ示されたので、ある程度時間もあるかもしれませんけれども、それまでにどういうふうな時間のつくり方をしていくのだとかということをしっかりやらなければいけないわけなので、そういったところも含めて、やはり本当にこれでいいのだろうかという視点からスタートさせていく。

要は慣例的にずっと昔からこういうふうにやってきました。昔３６人のときの一般質問とかを見ていると、１０名ぐらいしか多分質問もしていないと思うような記憶もありました。やはり今は本当にもうほとんど全員が質問するような状態、いろいろなやはり情報を得られる。その議会で、例えば一般質問によって情報を得られる。こういうことを質問している、ではこれはこうなのではないだろうかと、そこから勉強する、そういうことも十分考えられるわけで、そういったことも含めてやはり本当に時間もそうですし、その中身もそうですし、多岐にわたると思うのです。

自由討議、議員間討議をしっかりしていくことがまずは検証の一歩というふうに思うのですけれども、そのような考えなのですけれども、どうでしょうか。どうでしょうかという聞き方はおかしいかもしれません。

●議長（金澤俊）　今の神山議員に対しての何か御意見なりでもいいですから、何かあれば。検証ということで先ほど言いましたが。

板谷議員。

●議員（板谷良久）　すごくテーマが絞り切れないで検証と出てしまっているので、先ほど越川議員が２６名だったときの検証という話をされていたので、そこについてで一番、桜井議員からも出ていましたけれども、委員会の運営が、もうちょっと人数が減れば減るほど深まってこないのではないかなというような意見もあったのですけれども、私自身その委員会に関しては、うちの議会は本会議主議でやっています。全員が一般質問で、先ほども本当に神山議員が言ったように、全員が一般質問によっていろいろなカテゴリーでのお話ができるところも考えます。また、全国的に見ても人口が減ってきて議員の定数も減らしていく中で、やはり委員会主議よりも本会議主義でそのまま貫いていてよかったなと。本当に日本一おくれている議会と言われている中でも、実は一週回って最先端に回ってきたのだというような自負が私はあります。

ですので、まず検証するに当たって、その委員会がどうのとかということに関しては余り重視する必要はないのかなというふうに感じているところであります。

以上です。

●議長（金澤俊）　他に何かございますでしょうか。

小山議員。

●議員（小山征三）　検証という面では、昔の議会と比べれば苫小牧市議会というのは本当にいろいろなことをやっていると思うのです、今ね。議会だよりを発信するにしても、予算委員会、決算委員会でも本当に多くの皆さんが質疑をしている。前に以前に一番議会改革が進んでいるという会津若松ですか、あそこに行ったときには、本当に進んでいるのだけれども、かといって傍聴者がふえているわけではない、投票率も上がっているわけではない。議会側は一生懸命やっているのだけれども、それはストレートに市民には伝わっていないと。それは仕方がないのです。

だから、今の若い人たちも含めて、新聞もそうです。今新聞が、つい最近千歳民報が購読が減ってなくなるということで、読まない人が多いと。単なるネットで配信しているものだけを見ていると。だから、我々はどういうふうに発信をしていくかと。議会でやっている議会改革をやっていることを発信しているかということで、まずスタートしたのが議会だよりと。それは今は個々にもいろいろ私はやっていると思うの

です。昔と言ったら怒られるかもしれないけれども、昔は個人の発信というのは意外にないのです。でも今は本当に皆さんがやっているのですから、それで今は十分やってきているのかなということはあるのです。

そして、１０年、１５年前と比較すると、議員の年齢構成というのは非常に上がっているのです。だから、若い人たちを出やすい環境にするには、定数を減らすということは別なのかなと。今総務省の実態では、５０歳以上７０歳未満、これが約７割を占めているのです。そして、５０歳以下が２０％を切っている。そして、７０歳以上が１１％とかいるのですけれども、だから定数を減らしてもこの若い世代というのは、恐らく上がらないでしょうと。だからここを引き上げるということであれば、やはり間口を広くする。本来であれば広くするべきだと思うのです。先ほど何人かの方が言っていました。これだけの地域の中で２６でいいのかと、１人でも２人でも多いほうが住民全体の意見は吸い上げやすいというけれども、今現状からいけば２８をふやすということに対しては、やはり市民感情もありますし、いろいろなことがあるから、２８で若い人が立候補しやすい環境にするにはどうするかということになれば、議会のやはり発信力で、若い人たちがもっと政治に参加してくださいよということが大事なのかなと。だから、これから努力することはやはり議会の発信力だと思うので、それはマスコミが取り上げるとは別に個々にやって、そして議会だよりも充実させているのだし、そこで若い人に少し響けばいいのではないかなと考えているのですけれども、個人の意見です。

●議長（金澤俊）　　個人の意見でいいので、どんどん何かあれば言っていただきたいと思います。

喜多議員。

●議員（喜多新二）　　私は新人で皆様から今いろいろなお話を聞きました。特にあるのは、その人口に対して人数が適正なのか。人口減少だからこの人数が適切なのかというのもあれば、冨岡議員からもありましたけれども、町内会が８５町内会ある。また、小山議員からも東西４０キロメートルある町でこの人数が適正なのか。そういったいろいろな議論があって大変難しいなと私は思った中で、意見をさせていただきたいと思いますが、きっとこの議員数を減らせというところの根幹がどこにあるのかというところでいくと、恐らく税金の無駄だと市民の方が感じているのではないかなと。市民には当然伝わりづらいものがあるのは私もなってから思いました。実際の活動とは違って、知らない人はそういういろいろなことを言うのかなとは思いますが、一番多くあるのは、この議会改革というよりも、税金をもっと減らせという、支出を減らしてほしいということが一番の根幹にあるのかなと思っております。

そんな中で、だけれども若い人も入れていかなければいけないという中では、定数というものはそもそもどうして減らすかというと、きっと市民感情は、減らしてお金を減らしてくれと。議員報酬が減るから単純に減らしてくれと。そういう話かとは思います。ですが、いろいろな話を聞いていくと、定数は同じほうが若い人が入りやすい関係であることは間違いありませんし、どんどん減らしていけば、今６，０００人に対して１人の割合ですけれども、これが１万人に１人の割合になったら恐らく市議会議員というのは何だということにすらなると思います。必要ないという言葉以前に、よく知らないと。こんなことになっては町とか地域の政治というものは成り立たない。そういう意味では、定数については正しいかと思います。

ただ、この市民理解という部分においては、きっと定数が同じであれば議員報酬を少しばかりでも下げていただけないかという姿勢を求めているのではないかなと私は理解をしております。ですが、私も新人で立候補させていただいて、当選させていただきましたが、いろいろな経費がかかるというのも事実です。会社ではありませんので。そういったところを加味したときに、新しい人が本当に出ようと思うか。これから将来定数が減ります、報酬も減ります、身元保証がない、私たちが出ようかと思ったら若い人たちは町の政治なんかはやらないと思います。

新人で話がまとまってなくてごめんなさい。要は言いたいのは、定数が同じで議員報酬を下げるというのが、市民感情を理解する落としどころのように感じるのですが、やはりそれは難しいのだろうなと。実際になられる方がいても難しいのかなと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊）　　ありがとうございます。

時間もだんだんなくなってまいりましたが、何か他にございますか。

私としては、次の議論につなげるための論点整理などをしていきたいとは思っておりますので、今ちょっといろいろと出ましたけれども、例えば検証するべきということに関してどういった点について検証するのか。もしくは、増という話も出ましたけれども、増減、現状維持、それぞれについてのその理由づけというものがそれぞれ皆さんお持ちでしょうけれども、そういったものも論点になってくると思いますし、投票率の向上という点も、さらにその若い方のその参入をするためにはどうしたらいいのかというお話もありましたし、幾つか論点があったと思います。

また、その定数を考える際の議会運営という視点からのアプローチです。板谷議員が言われましたけれども、たくさんいたほうが議会審議にかかわっていいのではないかと。そういう視点は本会議中心主議で今やっているので、本会議に出ていればみん

なその議案の審議にはかかわれると。委員会になってしまうと会派で割り振られるので出られないところも出てくると。そうなると、今現実に委員会というのは何かの報告を受けるのが中心で、何か議案を審議したりというのは、陳情以外はないのかなと。こういう現状で考えますと、今のその仕組み、委員会のあり方だとかで考えると、現状のまま定数を下げても、審議には全員かかわることがほとんどできるのかなとか、そういういろいろな意見もありますので、そういうものをこの場で出していただいて、定数について考えていくというような場に今後もしたいなと思っています。

冒頭申し上げたように、きょうここで結論を出すものではありませんが、ちょっときょう皆さんから出していただいた御意見、提案をこちらのほうで論点整理をどんどんさせていただきまして、次回のまた定数の議論にいきたいというふうに思います。

特にその報酬とのセット論についても言及がありました。身を切って議員の処遇改善につなげるということは、いろいろな御意見としてはあろうかと思いますし、それはちょっと報酬審議会の関係で違うのではないかというのもあると思います。そのあたりも含めて、皆さんには会派なり会派を超えての御議論もいただいて、また次回の協議会にいきたいと思いますが、事務局は何かありますか。

桜井議員。

●議員（桜井忠）　　先ほど私も一度検証するべきだということの中で、私はやはり議会がもっともっと活発になるには、委員会をもっと活発にするべきだという考え方の中で、それで委員会の数、それから所属を１つではなくて２つにするということを提案したつもりでおります。

ですから、今後の検討の中でそれをぜひ入れていただきたいというのが一つお願いでありますが、ちょっと局長に聞きたいのですが、これは我々のこの定数というのは、最大限３４ですよね。人口に対するものが、前３６の定数があったわけです、我々。それが３４に、国の法律が変わって３４になったと。さらに、だけれども我々の独自の努力で２を減らそうということで、３６から３２になったはずなのですが。（発言する者あり）なくなったのか。そうですか。そこのところをちょっと確認したかったのですけれども、わかりました。それはなくなったということですね。ありがとうございます。

●議長（金澤俊）　　よろしいですか。

他にございますでしょうか。

小野寺議員。

●議員（小野寺幸恵）　　次回の全員協議会にかかわってなのですけれども、今論点を整理してというお話でした。ただ、きょうは議員定数だというテーマの中で、それ

にかかわってしか私は発言していないのです。例えば委員会の運営はどうあるべきだとか、議事の日程がどうあるべきだとか、さまざま意見を持っているのですけれども、きょうはそこは避けたつもりです。そこで、そういう議論も今後本当に大事だと思っているのです。定数にかかわっての議員協議会というふうに絞るのもまた難しい。きょうの御意見を聞いていても難しいと思うので、そういうものも配慮して何かこう次の協議会につなげていただけたらと思いまして、要望です。

●議長（金澤俊）　　はい、わかりました。

今回の全員協議会は、報酬についての話もしたいというのが改革さんからだったと思いますが、発言をしたいということで言われて、あくまでも定数だけれども、かかわるものとしてはそういう発言は制限はしませんということで臨んでおりますので、今いろいろ出て、いただいた意見もいただいています。

小野寺議員からもありましたように、いろいろ出たので、今後その論点をどう整理して、どのようにまた皆さんに議論いただくかというのも、今後、整理して考えたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、今御意見をさまざまいただきましたけれども、また近日中に全員協議会を開催して、引き続き協議を進めていきたいと思っております。

なお、次回の全員協議会の日程及び時間につきましては、後日改めて議員の皆さんに通知をいたしたいと思います。

この件についてはよろしいですね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊）　　以上で、本日の全員協議会を終了いたします。

お疲れさまでした。

散　　会　　午前１１時５７分

以　上。

資 料　1

議員定数について

１　これまでの定数の経過

	～H15.4.30	H15.5.1～ H19.4.30	H19.5.1～ H27.4.30	H27.5.1～ R5.4.30
定数	36 名	32 名	30 名	28 名

２　議会改革検討会での協議内容（　30 名　→　28 名　）

平成２３年　４月　統一地方選挙（定数 30 名）
平成２３年　７月　議員定数について優先項目として取り扱うことを決定
平成２４年　３月　６月の検討会で議員定数案を取りまとめることを決定
平成２４年　６月　過去の代表者会議の意見などを鑑み、座長案として次期改選期から２名の削減を提案
座長案を各会派持ち帰り、９月の検討会で結論を出すこととする。

座長案提案理由
地方分権化が進む中、地方公共団体の処理する事務、案件が多種にわたること、執行機関に対する議会の機能、役割が一層求められること、各常任委員会の人数、広大な行政面積に住む１７万を超える市民の民意を反映させるための人数、さらにこれまでの各代表者の御意見などを鑑み、急激かつ大幅な議員定数の削減よりも穏やかな削減が望ましいため。

平成２４年　９月　条例の改正については、市民参加手続が不要であることを確認
座長案について各会派からは以下の意見が出されたが結論が出ず、座長案を尊重しながら全会一致を目指し、１２月の検討会で結論を出すこととする。
・もう少し削減すべき
・現状維持とすべき
・何回かに分けて削減すべき
・報酬とセットで議論すべきでない　等
平成２４年１２月　各会派協議の結果、座長案のとおり３０名から２名削減し、２８名とすることで決定
平成２４年１２月　１２月定例会で議員提案として議員定数条例を改正（次の一般選挙から施行）
平成２７年　４月　統一地方選挙（定数 28 名）

３　道内全市の定数について

全国市議会議長会より
（平成31年1月1日現在）

市名	人口 (A)	順位	議員定数 (B)	順位	議員１人当たり人口 (A)/(B)	順位
札幌市	1,955,457	1	68	1	28,757	1
旭川市	337,392	2	34	2	9,923	2
函館市	258,948	3	27	7	9,591	3
苫小牧市	171,811	4	28	4	6,136	4
釧路市	170,364	5	28	4	6,084	5
帯広市	166,889	6	29	3	5,755	6
江別市	118,985	7	25	8	4,759	7
北見市	117,806	8	28	4	4,207	10
小樽市	116,516	9	25	8	4,661	8
千歳市	97,021	10	23	10	4,218	9
室蘭市	84,405	11	21	14	4,019	11
岩見沢市	81,778	12	22	11	3,717	12
恵庭市	69,850	13	21	14	3,326	13
北広島市	58,630	14	22	11	2,665	15
石狩市	58,345	15	20	16	2,917	14
登別市	48,395	16	19	17	2,547	16
北斗市	46,487	17	22	11	2,113	19
滝川市	40,365	18	18	18	2,243	17
網走市	35,701	19	16	25	2,231	18
伊達市	34,365	20	18	18	1,909	20
稚内市	34,249	21	18	18	1,903	21
名寄市	27,569	22	18	18	1,532	23
根室市	25,953	23	18	18	1,442	25
紋別市	22,041	24	16	25	1,378	26
富良野市	21,907	25	18	18	1,217	29
美唄市	21,602	26	14	28	1,543	22
留萌市	21,312	27	14	28	1,522	24
深川市	20,803	28	16	25	1,300	28
士別市	18,965	29	17	24	1,116	31
砂川市	17,137	30	13	30	1,318	27
芦別市	13,635	31	12	31	1,136	30
赤平市	10,186	32	10	32	1,019	32
三笠市	8,562	33	10	32	856	34
夕張市	8,087	34	8	34	1,011	33
歌志内市	3,275	35	8	34	409	35